

2024 年 10 月 3 日（木）～4 日（金） 那須姥ヶ平紅葉、三斗小屋温泉&茶臼岳（1915m）

3 年前に姥ヶ平の紅葉を訪ねましたが、その時は少々盛りを過ぎていました。今回は前回よりも一週間ほど早めの計画を立てて、紅葉を楽しもうと計画しました。

今夏の二ヶ月間の猛暑続きという異常気象が、紅葉にどのように影響するのかは予想が付きませんでした、三斗小屋温泉での温泉三昧も捨てがたい楽しみでしたので、予定のスケジュールで行くことにしました。

参加者は堀さんと直前に参加表明の高橋雄さん、そして吉松の 3 人です。

レポート：吉松

初日（10月3日木曜日） 曇り；茶臼岳登山&姥ヶ平散策

宿泊：三斗小屋温泉 煙草屋旅館

日本列島が 2 つの台風に挟まれる事態となり好天は望むべくもなかった。雄さんからは風が強いという連絡が入ってきた。特に 2 日目の 4 日金曜日は風速 20m も想定されるとの情報ではあったが、臨機応変に対応することにして決行することにした。



8 時 08 分新幹線那須塩原駅に到着

紅葉の時期だというのに、この登山客の少なさはなんだ！

と、一抹の不安が沸かない訳ではなかった。



山の方には、厚い厚～い雲がかかっているようだ。



なんてったって、

那須ロープウェイに向かう路線バス待ちの先頭に我々 3 人が並んでいるくらいだ！！

案の定、路線バスはガラガラ、ほとんど貸し切り状態だった。
貸し切り状態だったから、お一人1640円払ってもその価値は十分に有った。
那須ロープウェイ山麓駅には定刻の9時52分に到着した。



こんな調子ならゴンドラはガラガラかと思いきや、小学校のハイキングらしき一団30人ほども乗り込むようだ。
先生の指示で、既にみんなはレインウェアを着用していた。



小学生たちと一緒にロープウェイ山頂駅へ
視界は不良
料金は、往復1800円也



10分も経たずに山頂駅に到着、片道900円は少々高いな～

駅舎の外では霧雨が降っている。
レインウェアを着た準備の良い小学生たちは、先生の引率でさっさと山頂駅を出て行った。

霧雨に、いささか登山への挑戦意欲の沸かない我々はオロオロするばかり。
少々早いが先に昼飯でも食うか！という結論になった。
堀さんと雄さんは、ロビーの蕎麦屋に入って腹ごしらえをした。
吉松は、ハロウィンの飾りが賑やかな休憩場所で持参の軽食を食べることにした。



そうこうして20分も経ったら、なんと霧雨が止んでしまった。
気にしていた風さえも、ほとんど吹かなくなった。



10時35分

現金なもので、一気に気持ちが前向きになって、出発することにした。



雲が途切れて日まで差し込んできて、那須高原が遠望できるようになった。



小学生たちのグループ第2陣30名ほどは、我々の後のゴンドラで登ってきた。

彼らはもうレインウェアは着ていない。堀さんの後ろから賑やかに登ってきている。



那須岳標識に到着

見上げると、山頂辺りには青空まで見えてきた。

ほとんど風は無し

那須岳の標識前で、児童たちは集合写真を撮っていた。

我々も近くのベンチで暫し小休止



写真を撮り終えた児童たちは山頂へは登らず、「牛ヶ首」を経由して「峰の茶屋跡避難小屋」へ向かう巻き道を歩いて行った。まだ小学校の2年生くらいだったので、山頂は避けたのであろう。



長い列をなして巻き道を「牛ヶ首」へ向かう児童たち

我々は10時50分に山頂に向けて出発



11時10分 「大岩」に到着



そこから20分程で、那須岳神社の鳥居を通過して山頂に建てられた祠「那須岳神社」に到着した。



那須岳（茶臼岳 1915m）頂上にて



未だ火山活動が続いている那須岳ではあるが、登ってくるまでに僅かながら岩場の陰に咲いている花を見かけることが出来た。



山頂にはほとんど登山者が現れない。
暫くのんびりとしていた。



1 1 時 5 0 分 御鉢巡りをしながら下山。雲が低く垂れこめてきて、御鉢の様子はあまりよく見えなかった。



3 0 分も歩くと、峰の茶屋跡の避難小屋が見えてきた。

そこでは、巻き道を歩いて行った児童たちが既に到着していて、休憩をとっていた。



われわれも避難小屋近くのベンチで小休止

1 2 時 3 5 分 牛ヶ首経由で姥ヶ平へ向けて出発



1 2 時 5 0 分

噴煙が噴き出す「無限地獄」に到着



そこには硫黄の塊もゴロゴロ



13時

牛ヶ首少し手前の姥ヶ坂に到着
ここから、木々を抜けて紅葉が広がるはず
の姥ヶ平へ向けて下って行った。



見渡す限り、紅葉が広がっているはずであったが、Muu～残念。 紅葉には早すぎたか！！



13時30分 姥ヶ平到着

そこには、我々以外誰もいなかった。
広場の真ん中あたりのベンチに腰掛けて、
大休止を取ることにした。



少ない紅葉ではあったが、これから広がるであろう紅葉の見事さを感じさせられる写真をどうぞ。



ゆっくりと休憩をとった後に、本日の宿泊地である三斗小屋温泉に向かうことにした。



13時55分

「三斗小屋」「ひょうたん池」を指し示す標識あたりを通過

今回、「ひょうたん池」はパス

「ひょうたん池」を過ぎてからも、三斗小屋までは少々歩く。
多少のアップダウンもあって、一頑張りが必要だ。



登山道の少ない紅葉ではあったが、「オオカメの木」だけは、赤く染まっていた。



15時

沼原（ぬまっぱら）分岐に到着

ここから20分ほどで三斗小屋温泉に着く



15時30分

本日の宿泊場所「三斗小屋温泉」に到着



宿は、露天風呂のある「煙草屋旅館」にした。



宿代は繁忙期につき、通常期より500円高い13000円

ところが、紅葉が遅いこともあって本日の宿泊登山者は10人であった。繁忙とは思えなかったのだが仕方がない。後で知ったのだが、隣の宿「大黒屋」は宿泊者は8人であったとのこと。

早速、煙草屋旅館自慢の野天風呂で、本日の疲れを癒した。



湯上りの一杯は、山の湧き水で冷やされた缶ビール



堀さん、吉松持参の純米酒も美味かった。

夕食は17時30分から

宿の主人から一言・・・「この時期に、これほど紅葉が少ないのは初めてだ。まことに申し訳ない。」

主人の所為ではないのに、随分気の毒がっていた。



食事が終わり、部屋で少々日本酒を楽しんだ。

内風呂があるので、再びひと風呂浴びて寝ることにした。

【閑話休題】

宿の主人は中々粋な方ようです。

*トイレの男子用小便器には、常に山の水が流れるようにしてありました。こんなような張り紙がありました。

「常に水を流しているけれども止めないように。用をたす方は、用の方に気持ちを集中させて下さい。」

*洋式トイレの中にはこんな張り紙も。

「一度水を流すとタンクに水が溜まるのに10秒ほど時間がかかります。楽しいことなどを10考えていてください。そしたらタンクに水が溜まっています。」

* 三斗小屋温泉から山道に抜ける場所に、ひとまたぎほどの小さな小川があつて、小さな橋がかけてあります。

橋には立札がありました。その立て札には、こんなことが書かれていました。

「このハシ渡るべからず」

我々はそれに応じて、端を渡らず真ん中を歩いて渡ることになりました。